



森のなかま

2018年7月号

NO. 123 (継続268号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 Tel.046-297-0301・Fax046-297-0302



『緑の祭典 “かながわ未来の森づくり”2018 in はこね

2018年5月27日(日) 場所:箱根町 やすらぎの森 参加者:159名 晴れ



< 統括インストラクター 柏倉 紘 4期 >

(総括)

8年前に行われた「全国植樹祭」の灯をともし続ける事を目的に決められた(5月第4日曜日「かながわの森へ行こう!」)の日に、箱根町で実施しました。

隔年開催で4回目となる今年は、杉・檜の巨木が育つ人工林を落葉広葉樹も育つ混交林にしていこうという新しい森林を創出する取り組みとなります。

午前、4種の苗木1000本を植える。午後は、森林浴をかねて散策し、「天下の陰」と歌われた箱根の緑したたる懐に浸り、満ち足りた思いで帰路につく皆さんの双眸にはあふれる喜びを認めることができました。

(各活動については下記に記載)。



やすらぎの森

(植樹)

(記 澤村 徹 ⑫)



小田原駅の案内

インストラクターは前日に当日へ向けて目印立ての準備、当日は小田原駅で参加される方々を案内する係と現地で植樹の準備する係の二手に分かれ活動を開始しました。

9時過ぎに参加される方々が現地に到着、順次受付の後予めバス毎に済ませた班分けに従ってそれぞれの班へ移動。1~4班は北東斜面を、5と6班はその南側の緩い斜面。それぞれの班を更に3グループに分け鋤を二人に一本、苗は一人あたり数本ずつを持って目印の立っている場所へ移動。インストラクターから植え方の説明を受けて植樹を開始しました。

苗はヤマザクラ、ヤマボウシ、イロハモミジ、ヒメシャラの4種類を植え、針葉樹広葉樹の混交林を目指します。鮮やかな新緑の中、爽やかな風が吹く絶好の天候に恵まれ作業も順調に進みけがや事故もなく無事予定通り終了することができました。苗も全て植えることができました。参加された方から ①杉の木の下の方に枝がないのは何故 ②植えたあとこれから先どうするのかと言う質問がありました。「笑顔で帰宅」、「また森づくりに来よう」と思ってもらえるような運営を心掛けました。終わってからの皆様の様子からそれは叶ったのかなと感じられ、参加された皆様に感謝です。



植樹前の事前確認



後半の場所は結構斜面



植樹中

(式典)



来賓挨拶、表彰等



司会のみどりの女神



記念植樹

(探訪)

(記 宇田川 祐美恵 ⑬)



ヒメシャラ等説明



サンショウバラ



サラサドウダン



ニシキウツギ



シカの毛こすり傷痕が！

探訪では60分と80分のコースからお選びいただき、箱根やすらぎの森の園内を散策しました。参加者は予想よりも少なく感じられましたが、その分、少人数でゆとりをもった探訪となりました。

新緑の清々しさを味わいながら、富士山と芦ノ湖の素晴らしい眺望を楽しみ、遠くに自衛隊の演習音が響くのもまた一興、この立地ならではの不思議なハーモニーです。スギとヒノキの違い等も観察しながら、箱根らしい植生をお楽しみいただきました。

今回植樹いただいた4品種のうち、天然記念物のヒメシャラ林を有する箱根の名物ともいえるヒメシャラは特に、参加者の方にとって馴染みの薄い樹種のようなのですが、大きな成木を観察することが出来たので、赤褐色のすべすべとした特徴的な樹皮の肌触りなども体感いただき、ご自身が植樹された苗木や、植樹会場の森の将来的な姿を実感いただけたのではないかと思います。

丸太切り (記 末原 興一 ⑮)

「緑の祭典」では植樹や探訪会の他にも野外展示コーナーでは森づくりの色々な取り組みが紹介されました。その一画に設けられた「丸太切り体験コーナー」は、植樹イベントが終了した後、ほぼ絶え間なく体験希望者が集まり意外な？盛況となりました。県民参加の森林づくりの常連さんや、初体験の親子、大学生や緑の少年少女などの一般参加者のほか、県職員の方やゲスト兼司会者を務めた「2018 ミス日本みどりの女神」まで多忙な合間をぬって体験に参加されました。主催者側で用意したスギの丸太は径10cmで長さ2m。薄く切ればコースターにぴったりなサイズですが、参加者の多くは材の使い道より丸太切り自体を楽しみにチャレンジされていたようです。あるご年配の女性は、抗がん剤治療を終え久々のイベント参加とのこと。そのノコを挽く姿は逞しく、アッという間に3枚切り終えご満足の様子でした。

体験参加者は延べ33人、うち子供14人でした。親に連れられてというより自ら「やってみたい！」と積極的な子供、特に女の子が多かったのが印象的でした。

安全な活動と共に、楽しい体験を通じて「また森に来たい！」と思ってもらえるような対応を今後も心掛けたいと思います。

(写真: 広報 松本⑪)



丸太切り



ご苦労様でした。イベントは無事終了しました。

平成30年度 かながわ森林インストラクターの会 通常総会開催 4つの会活動方針を掲げ 平成30年度会活動始動！

< 取材：広報部 >

6月10日(日)特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会通常総会が総勢198名(委任状含む)の参加を得て、総会会場「ユニコムプラザさがみはら」で開催されました。

総会 の 全景

久保理事長

2部構成の運営で開催され、上田副理事長(10期)の全体司会進行で、久保理事長(8期)の挨拶で始まり、来賓ご挨拶を頂いた後、議長に大原氏(13期)、書記湯浅氏(11期)、野村氏(14期)を選出し第1号総会議案～第2号議案～第3号議案と議事に入り、福島事務局長(11期)や各部会会長等の報告、計画等の説明があり活発な質疑応答で終了しました。



全体司会進行
上田副理事長

福島事務局長

議長大原氏

(左より) 西ヶ谷様、高橋様、中田様、羽鹿様



(来賓の方々は(県環境農政局緑政部水源環境保全課)羽鹿課長、(同)中田主事、(同)高橋主事、(かながわトラストみどり財団)西ヶ谷専務理事兼事務局長です)。

○今年の活動に当たり会が掲げた方針は

1. 県民参加の森林づくり活動や森林再生パートナー企業・団体の活動を積極的に支援すると共に参加者から信頼される指導者の育成を目指す。
2. 県行政やかながわトラストみどり財団および関連機関と更なる連携をはかり、水源環境の保全・再生に努めると共に、その啓発活動に積極的に参加する。
3. 財政基盤の確立を目指し平成29年1月の臨時総会で決まった財政健全化施策を着実に推進する。
4. 森林に関する催しを積極的に開催し、諸団体・メディアに対して会の活動を発信する。

○第2部は司会進行が小松氏(14期)で、指定・認定NPOについて森本副理事長(5期)より説明がありました。



○総会終了 会場の後片付け終了 (右写真 ⇒)

(会員の方へ:詳細は配布した総会資料や会報森のなかま別冊をご覧ください)



森林部会 平成30分年度 第1回研修会

「刈り払い機研修会」

場所:南足柄市～SMAS(住友三井オートサービス)の森～ 日時:平成30年6月20日(日) 9:00～15:30 晴

森林部会 <河西 静夫 15期> (写真&写真キャプション:滝澤 洋子 5期)

森林部会主催の刈り払い機研修会が SMAS の森で開催されました。私は刈り払い機に関する知識、経験はありませんでしたが、安全面、実際の作業、および手入れ方法などの実践に備えることができるとあって期待して参加しました。

実習前に 11 期徳岡氏から技能に関する講義がありました。請負事業に参画する以上「プロ」であり、安全だけでなく作業効率も重視すべきであるとのこと。燃費、場所に合った刃の選択、傾斜地作業など、実践的な内容が「どうしてそうなるのか」という理由と共に説明され、素人の私でも「なるほど」と納得。また、14 期岩田氏からは服装や作業に関する注意喚起があり、事故の実例を聞くと、チェーンソーより危険な道具であることが伝わってきて少々緊張してきました。

実習場所は中央部にヒノキ苗が植林された広いススキ野原でした。周囲を二次林に囲まれ、適度な木陰があり、ジャコウアゲハの舞うとても気持ちの良い場所です。

私の班は、私以外はベテランの方ばかりでしたので、アドバイスをいただきながら思う存分練習することができました。最初はデコボコの地面と背の高いススキを相手に、エンジンの轟音に圧倒されつつキックバック（刈刃の跳ね返り）を恐れて刈っていました。そのため地上部の刈り残しが多く作業効率が悪かったのですが、地面の位置を丁寧にトレースすることで比較的きれいに切ることができるようになりました。刈刃は右から左に動かすのですが、地面に対し刈刃を左に 10° 程傾斜させると刈った草が左に集まって作業が楽になることや、背の高い草や地面に障害物がある今回のような場合は二度刈りすると効率が良いことなどを体感することができました。

昼食後は傾斜地でも作業を行いました。自身の態勢確保がとても重要で、不十分な姿勢からでは疲れる上に大変危険であることを実感しました。

刈り方以外にも燃料の調製、刃の交換、グリスアップ、作業後の手入れについて一通り学ぶことができ、次回は自力で刈り払い機を扱えると思います（たぶん）。

が、その前に請負作業に必修の安全講習を受講しなければ・・・

参加者：佐藤⑤、滝澤⑤、水津⑨、福島⑨、水口⑨、大澤⑩、
徳岡⑪、大橋⑪、松永⑪、石川⑫、宇田川⑬、江上⑬、
斉藤⑬、前田⑬、松石⑬、岩田⑭、小松⑭、鈴木⑭、
大見⑮、河西⑮、竹内⑮、鶴井⑮ （参加者 22 名）

（うち講師：岩田、徳岡、佐藤、江上、担当：松永、岩田、滝澤）



安全な作業のための講義



基本に基づいて機械を扱う



刃の取り換え方を実習



最後は背の高い萱のエリアで

(公財)かながわトラストみどり財団主催 第1回ブラッシュアップ研修会

「自然観察会における指導のポイント」 講師:森林総合研究所 研究専門員 小泉 透 氏

日時:5月12日(土) 9:30~15:30 場所:八王子市廿里町 森林総合研究所多摩森林科学園 参加:37名

< 國弘 明子 14期 >

多摩森林科学園は国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所の支所です。約7haの展示林、約8haのサクラ保存林、約40haの試験林からなり、来園者は年間4万人です。研修の目的は案内表示や展示物が分かりやすいものであるかを検討することでした。午前は講師の森林総合研究所 研究専門員 小泉透氏から、科学園の概要と林内の案内表示についての講義をいただき、午後は各自で林内を観察し案内表示を確認しました。



趣のある建物



室内講義風景と講師の小泉氏



屋外観察風景

案内表示は次のとおりです。「森のポスト」はケヤキ等10種の樹木の案内です。上段には樹木の特徴、下段には材の利用例についてフリガナを付けて書かれています。中段には利用例の鉛筆や下駄等が置かれ、触れるようになっています。野鳥の案内は生態等の説明と注釈を入れた写真を掲示しています。「ムササビスポット」は樹洞、巣箱、樹皮はぎ、糞、食痕について、それぞれ確認された場所に写真と説明を設置しています。「こんちゅうスポット」は「チョウの幼虫にアリが集まる」等、ミニ知識が書かれています。その他の樹木や植物についても数多くの案内表示がありました。最新状況の案内に更新しやすいように、多くのものをラミネート製にしているとのこと。研修生からはクイズラリー等を配布するとさらに最新情報が提供できる、林道から離れた案内表示はスマートフォンで読み取れるようにすると内容が分かる、寄にも案内表示を設置すると役に立つとの意見が出されました。



森のポスト



野鳥の案内



ムササビスポット



こんちゅうスポット



環境教育パネル



植物の案内



展示室の一部

講師から展示室で林業の仕事のプチ体験ができるようにしたい等の説明がありました。研修生からは環境教育パネルが分かりやすい、木の模型に根が付いていて素晴らしい、ほ乳類の食痕や骨標本が充実しているとの意見が出されました。内容毎にスタイルを変えた分かりやすい案内表示や展示物はとても勉強になりました。

(写真:國弘⑭、松本⑪)

平成30年度 第1回 やどりきの森に行こう！

テーマ: 緑したたる森で癒やし体験

場所: 松田町やどりき水源林 日時: 6月2日(土) 晴れ 参加: 42名

< 記&写真 吉田 郁夫 11期 >

天気は曇りから晴れへと素晴らしい天気。募集当初は募集した参加者が少なく開催が危ぶまれたが、会員の努力によって、結果的に定員を上回る42名となった。全員に対応するため、インストラクター仲間にも応援を頼んでの実施となった。

また赤ちゃんから70代のお年寄りまでの年齢層なので子供向け大人向けのグループ編成とした。

活動内容は、「針葉樹の森で寝転んで森の中を堪能しよう」、「広葉樹の水辺でハンモックに揺られ五感を解放しよう」、「せせらぎの水中の音を聞いてみよう」、「滝のしぶきを浴びてみよう」、「森と空の広さを感じつつハーブを味わってみよう」、そして「自然に包まれた時間を過ごしてリラックスを」。



多岐にわたる年齢層



...寝転んで森の中を...



...ハンモックに揺られ...



...水中の音を聞いて...



滝のしぶきを浴びて...



森と空の広さを感じつつ...

のんびりと2時間半の森の散策を楽しんでもらった。昼食も晴れた野外の木陰で。美味しさ3倍でしょう。事故もなく無事午後1時半の臨時バスに乗って松田駅へ。

お客様の募集から、お土産や事前準備、当日の用意と片付けなど、皆の協力で盛況なイベントとなりました。



昼食も晴れた野外の木陰で



臨時バスに乗って松田駅へ

やどりきの森に行こう
第2回は11月17日
第3回は 3月16日
を計画しています。

担当:
癒やし部会:
菊地①、若林⑦、宮下⑩、
山下⑪、笠原⑭、吉田⑪
やどりき事業部:
佐藤①、水口⑨、古舘⑬

活動短信

今回の掲載は5/10～5/26です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



フリーイラスト
より



蚯蚓出 5/10～5/15頃
みみずいずる
蚯蚓が地上に這い出る
第二十候 立夏 次侯

紅花榮 5/26～5/30頃
べにばなさかう
紅花が盛んに咲く
第二十三候 小満 次侯

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。

写真もあれば1枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)
場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター (○数字:期) **研**:研修枠
以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 高校生(都立桜町高校)による奉仕活動(植樹)

日 5月10日(木)11:00～14:15、雷雨のち晴

参 参加者の活動は中止

場 宮ヶ瀬ダム・鳥居原園地

スタッフ (公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団:6名

イ L鈴木⑤、柏倉④、小野⑦、村井⑨、西出⑫

昼前に激しい雷雨があったために、高校生による植樹は中止となり、用意された 160 本のドウダンツツジの苗木は、財団の6名とインストラクター5名で植樹することになりました。ところが作業を始めた昼過ぎには、急激に天気が回復して青空が広がり、これなら高校生たちも植樹ができたのではないかと、非常に残念な思いがしました。

結局、約2時間かけて、全本数の植樹を終えましたが、高校生たちには貴重な体験となる良い機会であったのに、意地悪な天候のために、それも叶わず、何とも残念な結果になってしまいました。来年は、天候に恵まれることを願いつつ、現場を後にしました。

(記 西出 健一 ⑫)

◆ 相模原クレマチスフェアー

水源の森林づくり街頭キャンペーン

～初日～

日 5月12日(土)8:30～15:30、晴れ

場 相模原市麻溝公園

参 61名(大人35名・子供26名)

財 佐々木様 **名刺交換** 京島 県議

イ L森本⑤、米本②、渡辺③、斉藤⑥、
澤村⑫、石井実⑬、小野⑮

初日ながら普通の土曜でもあり、出店者は元々少ない。新緑の美しい好天ではあったが、＜昨年GW中開催＞と比べ、やはり来場者は少な目。(昨年は141名、一昨年78名)少人数でもあり、チームワーク良く動くよう指示をだした。水源涵養実験紙芝居、クイズ、丸太切り+コースターづくり、相変わらず一番人気は葉巻笛。

(記 森本 正信 ⑤)

～2日目～

日 5月13日(日)8:30～14:30、曇りのち雨

参 32名(大人18名・子供14名)

財 豊丸課長

イ L村井⑨、米本②、渡辺③、相馬⑤、鈴木⑤、斉藤⑥、
小野⑦、福島⑪、星野⑬

前日は現地までタクシーとバス利用でしたが、2日目は自転車2名、電車、バス利用1名、マイカー2名、相武台前駅歩いて3分の＜なか卯＞から同乗5名。

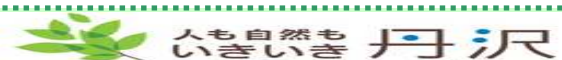
(相武台前駅北口も南口も駐車スペースがないので今後＜なか卯＞利用も良かな)

午後からの悪天候予報で午前中が勝負になった。クレマチスを購入される人にも積極的に声掛けを励行し水源涵養実験紙芝居は子連れより大人だけでの参加もあった。

やはり一番人気は葉巻笛で担当者がうるさいくらいあっちこっちで吹き鳴らし人集めに懸命。丸太切りの子供に「集中できないよ」と言われるぐらい。そのせいでもないが丸太は2日で1本しか消化できなかった。

13:45頃雨が降り出した為14:40頃繰り上げ終了した。

(記 村井 正孝 ⑨)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 富士通 FIP(エフアイピー)株式会社

間伐、自然観察

日 5月12日(土)、晴れ

場 山北町 世附 富士通 FIP の森

参 53名(男性42名、女性11名)

県 新谷様、中田様

イ 統括L上田⑩、

○間伐:L 牧石⑭、有坂⑧、水野⑭、山崎⑦、松山⑩、

湯浅⑪、西出⑫、真貝⑪、 経路:草野⑧、福島⑪

東名の交通渋滞により、20分程遅れて開始された。富士通 FIP 社長の挨拶・神奈川県のアフター・インストラクター紹介が有り準備体操を実施して、間伐班・経路班に分かれて森林活動が始まった。ほとんどの参加者は、森林作業が初めてということもあり、各班2本の間伐の予定を1本に変更し、十分な説明と安全管理に重点が置かれ作業を実施。木が倒れる迫力に感動したとの意見が聞かれた。

経路整備では、落下枝に埋もれた経路が歩きやすい整備された経路へと生まれ変わった。杭打ちに没頭された参加者も有ったようである。富士通 FIP の活動は年2回行われている。是非、次回も参加したいとの話もお互いにされていた。

(記 真貝 勝 ⑪)

○自然観察班

場 南足柄市県立 21 世紀の森

参 男性 27 名 女性 5 名

イ L 宮下⑩、宮本④、松石⑬、真部⑬

朝から気持ちのよい晴天の中、運動広場で体操を行った後、1班と2班はどんぐりコースを下って金太郎コースを登るルート、3班と4班は金太郎コースを下る逆ルートで自然観察をしながら 森の中を散策した。番号の付いた樹木の中から選抜した 10 種類を説明したほか、落ちていたホオノキの実の大きさに驚いたり、カツラの葉の独特な甘い香りや小さなヒノキの実を確認したり、沢の流れや鳥のさえずりなどを楽しみながら歩くことができた。

一番大きな感動は、どんぐりコースと金太郎コースの間の道路に出たときに感じた温度差だったように思う。森の中がいかに涼しかったか、道路に出た瞬間の暑さによって感じる事ができた。森が快適な環境を提供してくれていることに改めて気付かされた。参加者の皆様は体力的にはまだまだ余裕が感じられたが、気持ちよく過ごしていただけたなら幸いに思う。

(記 真部 幸枝 ⑬)

かながわしずくちゃんホームページは下記URLで見ることができます。



<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f530038/p780119.html>

◆ 株式会社和久環組

ワクワクの森 森林再生パートナー活動

日 5月15日(火)10:00~15:00

場 やどりき水源林

参 25 名

県 中田様、大西様、高橋様、石井様

イ L 上田⑩、草野⑧、小笠原⑩、福島⑪、

松石⑬、坂井⑮、ヨガインストラクター:ロザンダ・カワチ

若干予定より遅かったが集会広場でオープニングセレモニーが始まった。

県担当者中田様より、神奈川県の水環境保全の施策についての話の後、鎌田社長の挨拶で木を使って仕事をさせてもらっているの、「森に、木に、そして支えてくれる人たちに感謝を忘れずに！」をモットーに今日1日を過ごしてもらいたいとの話があり、その後スケジュールに従って活動が始まった。

木陰に椅子を並べて20分間の森林講話をリーダーが行なった。いろいろな質問もあり、真剣に話を聴いていた参加者の森林に対する関心の高さを感じた。

準備体操をしたのち、間伐班に7名 自然観察班に9名 森の癒やしヨガ班に9人が班分けされ各々の現場に向かった。参加者は元気いっぱいの若い人たちで動きもスムーズに活動が始まった。

各アクティビティ担当者の工夫により今回初めて森林ヨガを取り入れ実施したが、非常に好評であった。

間伐班もゆっくりと作業説明をしながらヒノキの間伐を行なった。丁寧な仕事をしたことから、掛かり木にもならず時間内で処理することができた。

自然観察班は、個々の花や木々の話はもとより、森林講話の内容を現実の森を見ながら説明したことによって、森の理解が深まったと喜んでいただいた。午後からは班構成を変え同じアクティビティを体験した。また、水源涵養キットを使っの説明もたくさんの質問をいただいたが、森の持つ水源涵養機能を視覚的に見てもらった。

ヤマビル被害は1名、その他ヒヤリハットは無かった。盛りだくさんの活動であったが、「今日は一日楽しかった」との参加者のことばに、ゆっくりと流れているような森の時

間を楽しんでいただけたと思います。また、水源の森を楽しみに来てください。お待ちしております。

(記 上田 啓 二 ⑩)

◆ JXTG エネルギー株式会社

日 5月19日(土)

参 活動別に(記載)

場 やどりき水源林

県 中田様 他1名

イ 統括 L 上田⑩

間伐:L 松本保⑪、福島⑪、佐藤⑤、永野⑥、

小野⑦、齋藤⑥、有坂⑧、小沢⑨

松山⑩、石川⑫、菌田⑬

丸太筋工:L 松永⑪ 高橋⑨ 西出⑫

自然観察:L 松石⑬ 宮本④ 真部⑬

清流ウォーキング:L 柏倉④、松本洋子⑧

クラフト:L 森本⑤、鈴木⑤、齋藤⑥



オリエンテーション
の様子

間伐 (参加者 70 名)

9 班に分かれ各班 1 本(スギ 3 本直径 22~24cm/ヒノキ 6 本直径 16~22cm)の間伐に挑みました。JXTGの皆さんはバリバリ仕事ができる年齢層の人達でした。切る、倒すは掛かり木の苦戦もありましたが木の倒れる迫力には感動していました。残念ながら間伐場所の伐れる木はなくなりスギ組は斜面がきつく太く、ヒノキ組は掛かり木になりやすい木しかなくなってきました。しかも実作業時間が短く(40 分位)最終工程の玉切り枝打ちまで完了した班は 4 班のみの状態で、終了後インストラクターが後処理を行いました。今回最後工程まで出来た班の人達が玉切り枝打ちも大切さがわかりましたと言ったのがうれしかったです。(記 松本 保 ⑪)

丸太筋工 (参加者 24 名)

前年度設置した丸太筋工の継続作業で、材料を集会棟から運ぶことから作業が始まりました。

全員で資材・道具を分担して運び上げての作業でしたが、各班協力して時間内に完成させ 10mあまりの丸太筋工がつながりました。作業場所が狭く錯綜したが予定通りのものができ達成感を満喫されました。

自然観察 (参加者 28 名)

3 班に分かれて B コースを散策しました。ヒルの出現が確認されたので少し急ぎ足での散策となったが、森林の中で五感を生かして森を感じ、腹式呼吸で森のフイトンチッドを感じていただいた。

清流ウォーキング (参加者 19 名)

2 班が一緒になり、集会広場下の寄沢を上流に向かって歩きました。カジカの声聞きながらまた、岩陰のよどみにいるカジカのおタマジクシを捕まえたり、子ども達は元気いっぱい、水辺を歩んで行きました。土留め堰堤の下でのひとは、迫力のある落水の音、漂うミストをとおして水源の森を楽しみました。

クラフト (参加者 37 名)

丸太切り、葉巻笛、ロケットラワンを順番に回って楽しんでもらえるようにしました。はじめはなかなか音を出すことができなかった葉巻笛もすぐ鳴らせるようになりいろいろな音が集会広場に響き渡っていました。身近にある自然の素材を使ってもっと遊びができるようになればいいなと思いました。

最後に(全体統括)

短い時間でしたが、各アクティビティをそれなりに楽しんでいただけたと思いますが、あと 30 分ほど活動時間が確保できれば、間伐など作業を最後までできなかったものを完了させることができ、達成感を味わいながら楽しんでいただけたのではないかと思います。

(記 (間伐を除く) 上田 啓二 ⑩)

◆ 県立21世紀の森

未病対策プログラム②「洒水の滝ハイキング」

日 5月19日(土) 8:30~14:30、晴れ

場 県立 21 世紀の森~洒水の滝

参 9 名(男性 6 名:内小学生 1 名 女性 3 名)

スタッフ 21 世紀の森 辰己様 平井様 早川様

イ L 上宮田⑪、白畑⑦

爽やかに晴れ上がった空のもと集合時間の 30 分前には全員集合され受付・オリエンテーリングの開始を早めました。今日見られるのであろう季節の花(ウツギ類のいろいろ)を白畑さんにご紹介いただき森林館前で準備体操をして早速出発です。

アオバトの哀愁漂う声に耳をすませ、山野草を愛でながらのゆっくりハイクです。内山林道~アカシアの森~テレビ塔~滝脇林道へと歩を進めます。春霞の中にも、展望のひらけた場所では視界が広がり一同解放感でいっぱい

です。コンクリート道の滝脇林道は思った以上に距離があり、滝はまだかの声もあがります。

木立の間に滝が姿を現われ、いよいよ今日のメイン落差69Mの洒水の滝に到着です。静まり返った森に豪快な滝のしぶきと轟音だけが聞こえ一同心眼を奪われます。この地で開山し100日間もの滝行を積んだと言われる文覚上人(もんがくじょうにん)の歴史にも触れマイナスイオンをたっぷり浴びながら広場にて昼食です。

アンケートへのご協力をお願いし本日の振り返り、次回(11月)の矢倉岳登山へもお誘いをしてお迎えの車2台に分乗し21世紀の森へ戻り解散です。お子様の虫刺され以外は事故もなく皆さん笑顔で楽しめた様子でした。

(記 上宮田 幸恵 ⑪)

◆ 持田製薬株式会社 森林育成ボランティア

- 日 5月26日(土)11:00~13:00、 晴れ
場 南足柄市塚原ボランティアフィールド
参 持田社長他 大人31名(内女性3名)
イ L村井⑨、斉藤⑥、小沢⑨、石井実⑬

毎年下草刈をしていた現場でしたが、ヒノキが背丈以上に伸び、枝葉が密集してきたので、今年は枝打ちに変更し作業を行いました。我々インストラクター4名は、ヘルメット、鋸、ゴーグル等を倉庫より搬出後、作業現場の下見を行い、班ごとの作業場所の確認を行い、持田製薬様の看板の前でお待ちしました。

11時過ぎに到着され、インストラクターの紹介、作業内容の説明、準備体操後、参加者全員がヘルメット、鋸を装着し、4班に分かれヒノキの林に出発、班リーダーが各作業場所にて注意事項を説明し作業開始。一人が一本を担当し終了した次は、山側のヒノキに取り掛かる段取りで枝打ち作業を開始。参加者の皆さまのパワーで、作業開始時には枝葉で覆われ暗かった林内が、作業が進むにつれ徐々に明るくなり眺望も開け、達成感を感じながらの作業と見受けられました。

12時過ぎ、全員(我々も含め)で作業現場の斜面で記念写真を撮り、全員事故なく集合場所へ下山。

(写真提供:持田製薬様)



持田製薬 平成30年度(森林育成)ボランティア活動(平成30年(2018)5月26日) 記念撮影の場にて(写真提供)

村井リーダーより作業終了の挨拶の後、持田社長より本日のご感想と、今後の活動内容に期待するお言葉を頂き、13時に皆さま笑顔で乗り込まれたマイクロバスをお見送りしました。

私事ですが今回養成講座(15期)修了し、初めての活動参加でしたが先輩方に見守られ無事終了できました。有難うございました。

(記 石井 実 ⑬)

◆ 日揮株式会社

水源林保全活動

- 日 5月26日(土)9:30~15:00、 曇り
場 塚原水源林
参 日揮(株) 三熊 様3名(大人3名)
イ L牧石⑭

当日は、曇り空で作業の行いやすい環境の中、午前は間伐活動、午後は枝打ち活動と充実内容で作業を実施しました。



間伐場所は足元の傾斜も比較的緩やかな場所ですが、周囲は木が密集しており間伐する檜の枝が重なりあった状態の中での間伐となりました。最初に間伐の作業手順の説明、伐倒方向の確認、足元の確保を行い、午前中に直径約11cm前後の檜3本の間伐を実施しました。2本目までは心配していた、掛り木の発生もなく狙った伐倒方向に倒れましたが午前中の最後3本目の間伐は確りと枝掛が発生、引く方向を修正し間伐作業を終了しました。作業終了後、参加された皆様は、間伐で明るくなった林内を実感されました。昼食時は、森林講話「間伐と枝打ちの必要性」について、

午後から行う「枝打ち活動作業のポイント」について、イラストを使用し説明させていただきました。

午後は、枝打ち活動前に手順と安全面の再確認実施後、作業を行い14:30の予定時間までに約18本の枝打ち活動を実施した後、用具の手入れを行い、本日のスケジュールどおり15:00に作業を無事終了しました。

(記 牧石 稔 ⑭)

熱中症を防ごう！ 熱中症の注意が必要な時期になってきました！！

(資料 2018. 神奈川県産業保健総合支援センターパンフレット等より)

<資料等まとめ:広報部>

水分を小まめにとりましょう！！

高齢者は自覚症状が鈍いので特に気をつけましょう！！互いに水分補給の有無の声かけを！！



平成 30 年度全国安全週間 7月1日～7月7日



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

6月のトピックス

遅咲きのヤマボウシが満開(広場)



(6月24日撮影)

7月の水源林 おいでください！

夏です。ここは水源林の場所。とても綺麗な川、そして滝もあります。水棲生物やトンボ、チョウチョ等もいます。森や川に入り暑さを吹き飛ばしましょう。

「森の案内」情報

夏の訪れ。案内人もはりきってお待ちしています！！

案内と事故保険は無料です。

●実施時間：毎週土曜・日曜・

AM10時・PM1時、1～2時間程度

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(公財)かながわトラスト
みどり財団 TEL：045-412-2255
FAX：045-412-2300

●ホームページ： <http://www.ktm.or.jp>
<http://ktm.or.jp/contents/event/h27/yadoriki127.html> E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。
バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35～40分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

洒水の滝祭り(山北町)

開催日：7月22日(日)10:00～

場所：平山洒水の滝碑前、滝不動尊境内

イベント内容：

- 滝開き式 午前10時～
- 式典 午前11時～
- 太鼓の競演 午前11時50分～
- 洒水の火祭り 午後2時30分～



問合せ：山北町観光協会 TEL 0465-75-2717

検索：<http://www.yamakita.net/event/69>

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当>

新) 笠原かずみ

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

Tel: 090-4137-9265

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】黒川 敏史

〒247-0066 鎌倉市山崎2273-1-515

Tel: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊はCCを】福島 正治(事務局長)

〒214-0006 川崎市多摩区菅仙谷3-1-1-204

Tel/Fax: 044-944-9423

Mail: fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) [http://www.forest-](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)[kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)

(HP担当：井出恒夫)

編集後記

★神奈川インストラクターの会に入会した翌年より広報部の会計を担当し、その後「森のなかま」発送の手伝いをさせて頂きましたが、今回は最後となりました。皆さまお世話になり有難うございました。

(小川)

★ホームセンターでアジサイの色を変える土を見つけました！赤アジサイと青アジサイ用の土です。

本当に変わるのかな？

来年挑戦しようと思います。

(笠原)

★7月の主な活動は、あつという間に伸びる草との競争です。暑い日差しの中熱中症には気を付けましょう。

(黒川)

★つい先日にお正月を祝ったと思っていたら、もう半年が過ぎてしまいました。「少年老い易く学成り難し」と言うけど「老人・・・」はどう展開するのが良いんだろう？

(吉田)

★6/24はやどりき案内人当番でしたが、大勢のビジター(秦野ガールスカウト)が訪れ、充実した当番となりました。ムササビも顔を出し、こども達は大感激でした。

(松本)

■

移行

電子配信：赤崎さん⑫から笠原さん⑭にイラストは大塚さん⑪から加藤さん⑮に発送には阿藤さん⑮が参加。

小川さんは広報部を卒業しました。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回／1年間お届け致します。

編集人：松本 保

事務局：福島正治

広報部：小川和恵 藺田栄哉 吉田郁夫

黒川敏史 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝

支援：伊藤恭造 大原正志 江頭淑子

2018年度

やどりき水源林のついで

参加募集

◆開催日：8月4日(土)

小田急線新松田駅南口9時集合 バスで現地まで送迎

◆場 所：やどりき水源林(足柄上郡松田町寄)

問合せ先：県民との協働による森林づくり実行委員会事務局

(公財)かながわトラストみどり財団 〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20

*電話:045-412-2255 *FAX:045-412-2300 *メール:midori@ktm.or.jpURL: <http://ktm.or.jp/contents/event/h30/yadoriki0804.html>

やどりき水源林のついで

